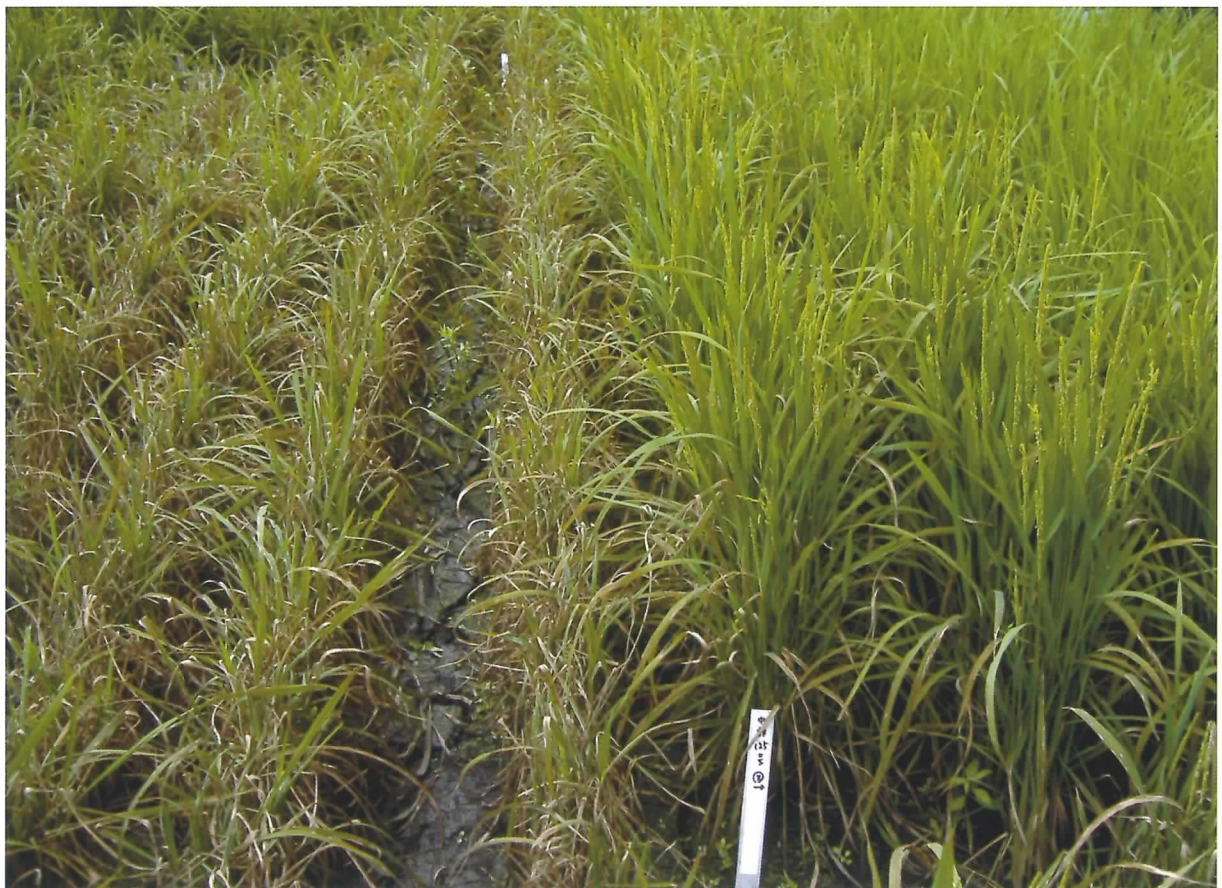




ゲノム育種法による画期的な水稻新品種 「中部125号」の開発

—農林水産省2009年農林水産研究成果10大トピックス第1位—



いもち病抵抗性試験の状況

【左の「コシヒカリ」はいもち病に弱い、右の「中部125号」はいもち病に極めて強い】

「農林水産省新農業展開ゲノムプロジェクト及び農林水産省指定試験事業」の成果です。
(平成21年8月品種登録出願)

世界で初めて、いもち病抵抗性遺伝子のすぐ近くにある食味を損ねる遺伝子を取り除いた水稻新品種「中部125号」を開発しました。いもち病にとっても強く、大変おいしい画期的な品種です。

従来の育種法では、陸稲の持ついもち病抵抗性遺伝子(*pi21*)を食味を損ねる遺伝子と切り離して水稻に導入することは困難でしたが、ゲノム育種法を用いるこ

とにより *pi21* だけを持つ個体を選抜することに成功したものです。

今後は、いもち病発生地域での普及が見込まれるとともに、いもち病抵抗性育種の母本としての活用が期待されます。

この成果は独立行政法人農業生物資源研究所及び独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所との共同研究によるものです。(山間農業研究所)